

5号ふ頭の復旧完了、供用を再開

6月13日、供用再開後第一船が入港

東日本大震災により、岸壁や荷役機械に大きな被害を受けた小名浜港5号ふ頭1号岸壁（水深12m）の復旧工事が完了、6月13日から供用を再開しました。

同日午後には、貨物船「NICOLAOS A」（53,806積載重量ト）が入港。本日14日から、工業塩約1万トンの荷揚げ作業を行っています。



▲被災時の5号ふ頭



▶13日午後、5号ふ頭に入港した外航船

水深12mの岸壁と、新設された荷役機械を有する5号ふ頭の供用再開により、小名浜港の荷役能力は大幅に回復。物流の活性化による復興への寄与が期待されています。

なお、現在小名浜港では、公共岸壁全34バースのうち28バース・概ね8割のバースが利用可能となっています。

